

球磨村賑わい拠点施設 基本構想骨子

(1) 上位関連計画等

球磨村のまちづくりの方向性及び本施設の位置づけ

上位・関連計画	項目	内容
第6次球磨村総合計画	まちづくりの方向性 (基本目標)	<ul style="list-style-type: none"> 共助のむらづくり 健康長寿のむらづくり 安全・安心な暮らしの環境づくり 未来を拓く人づくり 地域資源を活かしたむらづくり
	復興に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 避難対策の強化：渡地区において防災拠点を整備し、平時には地域住民が多目的に利用できる施設を計画。再エネ設備を導入しレジリエンス強化。 災害の伝承：渡小学校と千寿園の跡地に災害伝承施設及び遊具公園の整備を進め、地域住民のコミュニティの場、防災学習の場としての活用を検討
	未来への提言	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の整備：国道沿いに道の駅（飲食店、特産品の販売所）を整備
球磨村観光振興計画	観光振興の基本施策	<ul style="list-style-type: none"> 滞在型観光の実現 定期的な情報発信 観光資源の高付加価値化 球磨村のブランディング

(2) 社会潮流

本施設に関する社会潮流

球磨川水系流域治水プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の影響により、今後、気候変動による水災害の激甚化・頻発化が予測 流域のあらゆる関係者が協働し、まちづくりと連携した治水対策の推進 球磨川そのものが「かけがえのない財産」であり、「守るべき宝」になっていることを十分踏まえて、「命と環境の両立」を目指し、全ての関係者が協働した取組を実施
地方創生2.0	<ul style="list-style-type: none"> 観光・インバウンドの地方誘客の促進を通じた高付加価値化 「多様な地域資源」を生かした観光コンテンツ造成や観光客向けの移動手段などの受入環境整備等に取り組む地域等を支援し、観光地の高付加価値化を進める
道の駅の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 「道の駅」第3ステージ「地方創生・観光を加速する拠点」へ ⇒「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携してコンセプトの実現を成し遂げる取組 「道の駅」を世界ブランドへ、あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに、新「防災道の駅」が全国の安心拠点到

(3) 現状・課題

球磨村および計画予定地の現状・課題

立地特性	<ul style="list-style-type: none"> 人口規模が大きい人吉市に隣接し、広域の人が訪れる九州自動車道のICから近く、村の玄関口に位置。 国道219号に面しており、比較的良好なアクセス環境。JR肥薩線の復旧後は鉄道でのアクセスも可能。 球磨川に近接し、ラフティング発着場との連携ができる。
土地	<ul style="list-style-type: none"> 旧渡小学校、千寿園の跡地であり、令和2年7月豪雨において、甚大な被害があった地域。
人口動向	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が深刻であり、令和2年7月豪雨の影響により人口流出が更に顕著となっている。 少子高齢化が進行。3,510人(R2.7.1)⇒2,556人(R8.1.1)と5年で約1,000人減少している。
産業	<ul style="list-style-type: none"> 球磨村では、生活必需品を日常的に購入できる購買機能が不足している 熊本県の統計年鑑によれば、球磨村の商店数は、災害前後の平成28年から令和3年にかけて46%の減少となっている。中でも、個人経営の商店が18店舗から7店舗に大幅に減少(60%減)
観光	<ul style="list-style-type: none"> 球泉洞や球磨川(ラフティング)が目的地となっており、村内の地域資源・観光地への周遊が課題
住環境と復興事業	<ul style="list-style-type: none"> 総合運動公園に災害公営住宅、村有住宅が整備 球磨村に唯一あった遊具公園が復興事業により、撤去された。

(4) 村民ニーズ

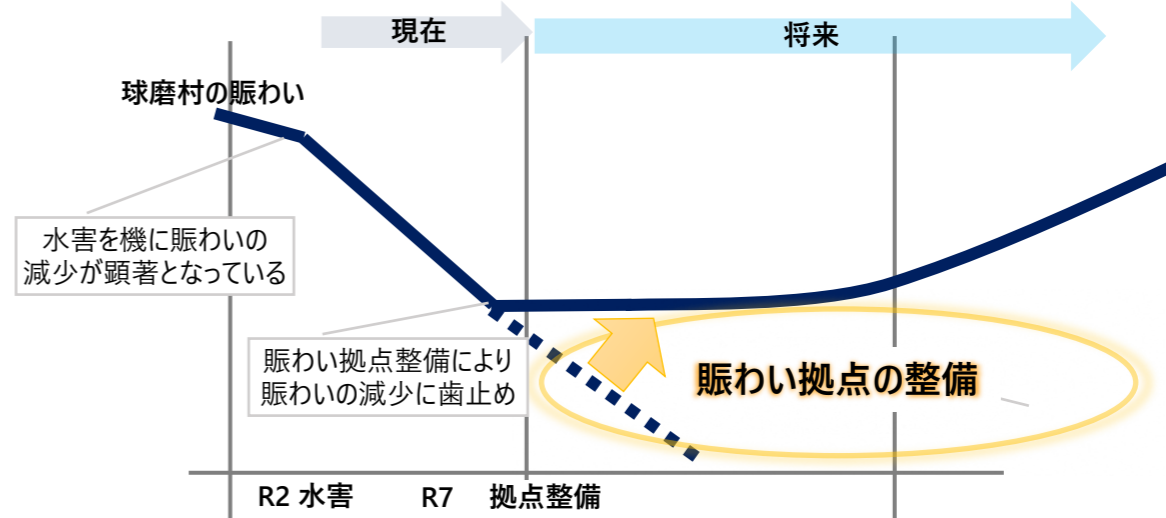
令和5年9月に実施した第6次球磨村総合計画後期基本計画策定に係るアンケート調査における村民のニーズ

設問	上位回答	%
あなたは、球磨村が将来どのようなむらを目指していくことが大切だと思いますか。あてはまるものを5つまで○をつけてください。	買い物などがしやすく、不便のない生活をおくることができるむら	65.3
	自然環境を保護し、里山を大切にしたい豊かな自然のむら	55.3
	子どもから高齢者、障がい者も生活しやすい福祉のむら	41.9
	交通事故や公害、災害対策が充実した安全なむら	36.1
	観光客などが訪れる魅力ある観光のむら	35.8

(5) 整備方針

【賑わい拠点施設整備の目的】

災害を受けて人口減少が進んだことや村の産品を販売する拠点が無いことにより、生産意欲、販売意欲が低下し、村全体の活気が失われつつある。村の活力を取り戻すため、旧渡小学校の跡地に、**復興祈念公園や道の駅の機能など様々な世代の人が集う賑わいづくりの拠点となる施設を形成し、村全体に人の流れを生み出すことにより、賑わいと元気のある球磨村の実現を目指す。**



【賑わい拠点の整備の方向性】

産業・観光振興の拠点

【現状・課題】

球磨村には、主要な商業施設がないため、村民の買い物ができないだけでなく、梨などの特産品を販売する施設もなく、商業・特産品PRといった産業の機会を損失しています。また、球磨村は観光資源を有していますが、滞在型の施設が少なく、村内・人吉球磨地域の観光回遊体制が図れていない現状があります。

【方向性】

村民・観光客がともに買い物を楽しめる商業機能を整備し、農林産物や人吉球磨地域の事業者の生業の場や販路を確保することにより**「産業の拠点」**を目指します。また、観光振興を図るため、賑わい拠点が滞在の「きっかけ」となり、情報発信等により回遊や周辺観光を促進する**「観光の拠点」**を目指します。

【将来像】

⇒村民が地域資源を活かした生業ができ儲かっている

暮らし・生活の拠点

【現状・課題】

災害をきっかけとした、急速な人口減少により、コミュニティ活動が衰退傾向にあり、住民の交流の場が少なくなっています。また、村にあった遊具公園を災害復興における村営住宅地としたため、現在、子どもが安全に過ごせる居場所が村内に少なくなっています。このようなことから住民の生活利便性が更に低下しています。

【方向性】

地域住民が日常的に交流できる場を設け、生涯学習等による球磨村での暮らしの楽しみや生きがいを生み出し、地域の交流を促進する**「暮らし・生活の拠点」**を目指します。

【将来像】

⇒村民が多様な人と交わりながら楽しく暮らしている

復興・防災の拠点

【現状・課題】

球磨村では令和2年7月豪雨による甚大な被害を受け、中でも渡地域は特に被害が大きかった地域です。この教訓を次世代に継承し、さらに、同様の被害を繰り返さないためにも、災害への備えや対策が必要です。また、令和2年7月豪雨災害の際は、救助部隊の活動拠点として総合運動公園を利用しましたが、現在は別の用途で使用しており、救助部隊の活動拠点が確保出来ていない状況です。

【方向性】

賑わい拠点の計画地は令和2年7月豪雨からの復興を内外へ発信する上でメッセージ性が高いことから、復興ツーリズムで活用できる**「復興の拠点」**を目指します。また、有事の際は救助部隊の活動拠点としても機能する**「防災の拠点」**の形成を目指します。

【将来像】

⇒地域内外の人が復興の経験と教訓から学んでいる

■球磨村賑わい拠点施設 基本構想骨子

(6) 賑わい拠点におけるコンセプト

【コンセプト】

球磨村の誇りを未来へつなく、魅力輝く賑わい拠点
 ~River・Rail・Roadが結び KUMAMURA Hub~

球磨村が誇る宝-人・自然・伝統・文化-を次世代へと継承し、村を守り続ける人と村の外から訪れる人々が交わり、新たな魅力が生まれる場所となることを目指す。
 本施設は水路・鉄路・陸路の「三つの路」が交差するインフラの結節点であり、村の玄関口に位置している。この立地特性を活かして新たな人の流れを創出し、地域全体へ活気を広げる拠点とする。



【コンセプトストーリー】

産業・観光 ~新たな出会いをつなぐ~

球磨村は、球磨川や球泉洞といった自然資本をはじめ、一勝地梨、鮎、球磨焼酎、一勝地曲げなどの希少な地域資源を有している。また、これらを活用したラフティングや田舎体験などの観光コンテンツは、地域経済の活性化と文化継承を担う重要な要素である。本施設は、これらの地域資源を統合的に発信する場として、来訪者に付加価値の高い体験を提供する。あわせて、特産品の流通・販売機能を強化することで産業振興を図り、観光と産業が循環する持続可能な地域づくりの拠点とする。

<p>【球磨村の魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川や山などの「自然」 ・球磨川でのアクティビティなどの「遊び」 	<p>【これからの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の特産品販売 ・観光の窓口 ・川遊びや、山遊びなど球磨村ならではの自然体験
--	---

暮らし・生活 ~人の絆をつなぐ~

球磨村では水害以降に人口減少が更に進み、地域で生活を支え合い、集う場が失われている。これからの球磨村には、この村で暮らす人が日常的につながり、見守り・支えあい・成長できる“むらの居場所”、“拠り所”が不可欠である。その場に身を置きたくなる、思わず行ってしまふ、人に自慢したくなる、人を誘いたくなるような、そして球磨村に生まれ育って良かったと思えるような場所を目指す。

<p>【球磨村の魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梨や栗などの農産物、ジビエ等の特産物 ・暮らす人々の優しさ 	<p>【これからの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源を有効活用し、観光客への販売 ・人々が集う憩いの場
--	--

復興・防災 ~未来の安心をつなぐ~

本施設の対象地である渡小学校と千寿園は、令和2年7月豪雨により特に甚大な被害を受けた場所である。ここから災害の記憶と復興の歩みを次世代へつなぎ、自然の恵みや畏れに向き合う「再生の象徴」と位置付ける。また、平時は防災意識を育む学びの場として、有事の際は、救助部隊の活動拠点として、村の安全・安心を支える拠点を目指す。

<p>【球磨村の魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豪雨災害の語り部による記憶の継承 ・再生可能エネルギーを活用した環境に優しい村づくり 	<p>【これからの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害・復興・環境などについて学ぶ場 ・有事の際の部隊活動の拠点
---	---

【賑わい拠点におけるターゲット】

ターゲット層	拠点の位置づけ	利用シーン
人吉球磨地域の住民	日常的に利用できる居場所	買い物・飲食・交流の場
国道219号利用者	通過する村から立ち寄る村	休憩・トイレ・お土産購入
九州圏内のファミリー層	球磨村観光の玄関口	お土産購入・飲食・観光情報
九州圏内の教育旅行者	復興と防災の象徴	復興・防災ツーリズム
全国・海外のアクティブ層	自然・サステイナ体験の入り口	他ではできない自然との共生や防災を体験

《短期的なターゲット》

日常利用者 × 観光客・通過者の利用方法を重ねる “複合ターゲット型”として検討

- ・住民アンケートにおいて一番高かったニーズは「買い物などがしやすく、不便のない生活をおくることができるむら」
- ・車で30分程度の範囲を指す商圏人口は3万人程度と小規模であり、地域外からの利用も必要。
- ・令和7年に本事業にて実施した計画地の前面交通量は約4,000台/12hと他地域と比較して少なく、ドライブ等の観光客のみをターゲットする施設として成立しにくい。（※平成27年は約6,700台/12h（出典：平成27年全国道路・街路交通情勢調査））

■ 人吉球磨地域の来訪者

来訪者の7割は九州
 «内訳»
 熊本県 24%
 福岡県 15%
 鹿児島県 15%
 宮崎県 10%

資料: 令和6年度人吉球磨観光実態調査結果報告書

球泉洞の来訪者を取り込み、かつ球磨村の玄関口として、来訪者増加と施設認知を図れる施設

- ・人吉球磨地域は、県内・県外からの観光客が来ているが、人吉市内の主要観光地への来訪が比較的多い傾向が見られる。

■ 人吉球磨地域で訪れた観光地（複数回答）※上位5か所と球磨村の観光地を抽出

※サンプル数(観光) 令和5年度 592票 令和6年度 641票
 アンケートの出典: 人吉球磨観光実態調査結果報告書に基づき作成

《中長期的なターゲット》

日本古来からの自然と調和した暮らしを全国・世界へ

- ・急流球磨川でのアクティビティ、森林の癒し、自然との共生や防災の学びをまとめて体験できる球磨村は、貴重な存在。
- ・本施設を活用し、遠方からの来訪者も地域の魅力を体感できる環境を整備し、全国・海外のアクティブ層へ効果的にアプローチしていく。

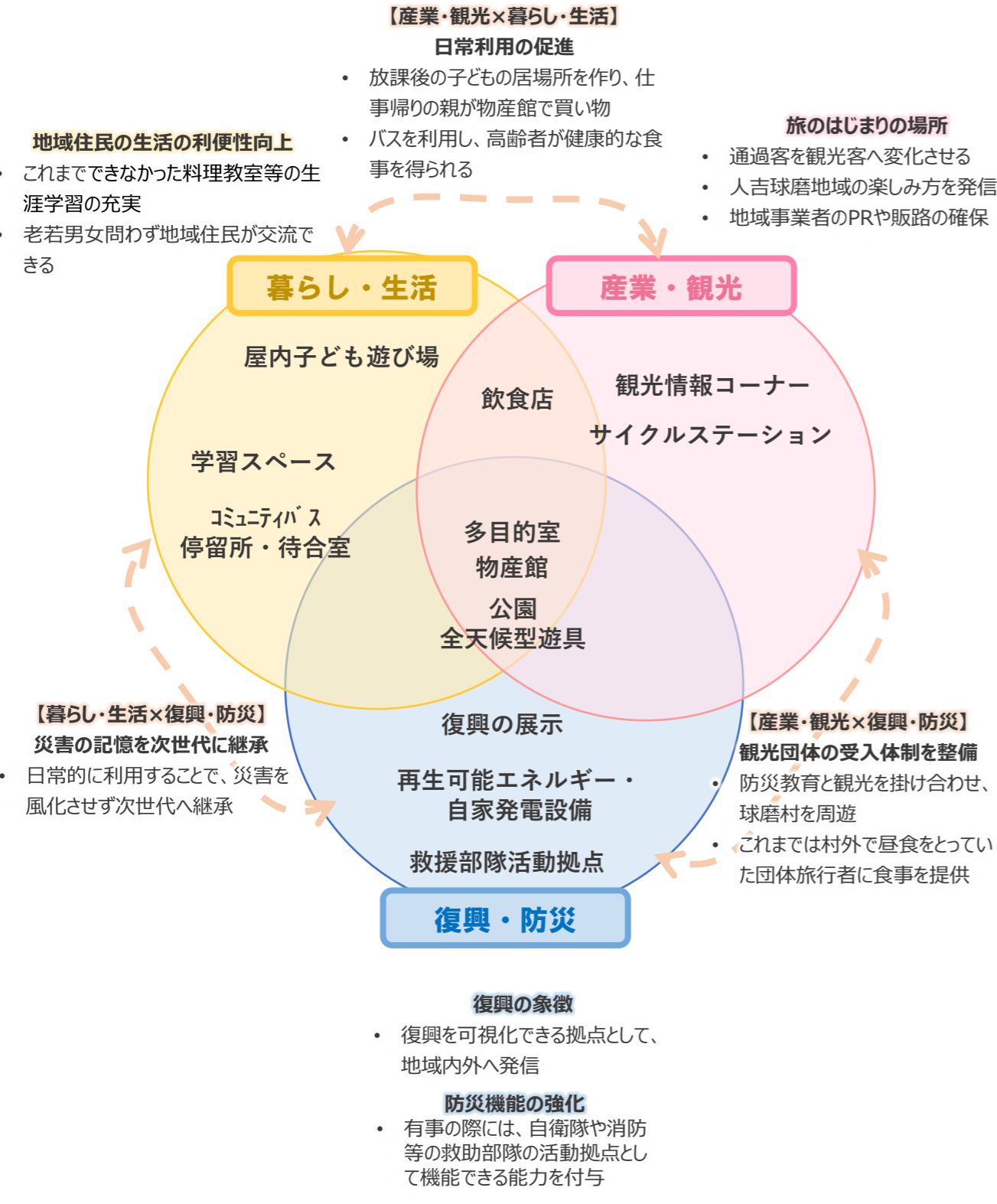
資料: 球磨村観光振興計画の図を基に加筆

(7) 導入機能

【導入機能のイメージ】

【共有機能】

- ・観光、日常でも利用できる機能
- ・賑わい拠点を訪れるきっかけになる
- ・災害を教訓としたフェーズフリーな施設
- ・自然や人とつながれる



分類	導入機能	整備施設	利用イメージ	
産業・観光	販売機能	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品等販売施設（農畜産物・加工品等） ・チャレンジショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品販売（野菜、食肉、果樹、ジビエ、焼酎、加工品など） ・販売用加工品の製造 	
	飲食機能	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食施設（レストラン、カフェ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・物産館で買ったものを食べられるスペース（イートインスペース） 	
	催事機能	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根付きイベントスペース ・多目的広場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい祭りなどの各種イベントを実施していくスペース ・災害時は救援部隊活動の拠点として利用 	
	休憩機能	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場（24時間利用）、RVパーク、EVステーション ・二輪車用駐車スペース ・トイレ（24時間利用） ・コインシャワー ・無料休憩スペース ・Wi-Fiスポット ・授乳室、おむつ替えスペース、おむつ自販機 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ休憩場所としての利用 ・大型車も含め、安心して車中泊ができる駐車場 ・車中泊者やサイクリストの利用を想定したコインシャワー ・乳幼児のいる世帯も想定し、授乳室、オムツ替えスペース、おむつ自販機等の設置 	
	情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供コーナー（紙媒体・情報端末） 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路情報、観光情報、気象情報等を発信 	
	観光ハブ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・総合観光案内所（案内、球磨村の文化・ものづくり体験受付等） ・その他（ふるさと納税自動販売機等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信や案内、ラフティングといった体験ツアーの総合受付機能を担い、村内観光の起点となる場 ・観光農園、曲げわっぱ、紙すき、陶芸など村の文化や生活など地域資源を堪能できる体験コンテンツを整備し、他では味わえない体験を提供 ・焼酎、一勝地曲げ、豆腐などのものづくり産業の技能継承、村のものづくり文化をつなぐ場 	
	交通結節機能	<ul style="list-style-type: none"> ・バス乗場、鉄道（渡駅） ・サイクルステーション（修理工具等の貸出し） ・電動レンタサイクル 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる交通手段（自家用車、バス、鉄道、自転車、タクシーなど）が接続する場所 ・サイクルステーションとしても位置づけ、サイクルラックの設置、修理工具や空気入れの無料貸出しを実施 ・電動レンタサイクルなども整備し、村内観光の起点の場 	
	暮らし・生活	地域交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的室（研修・学習スペース、図書スペースなど） ・屋内子ども遊び場 	<ul style="list-style-type: none"> ・語り部活動の場（雨天時の活動）や教育旅行での学習の場として会議室利用を想定 ・学習スペースを設け、子どもたちが集まれる場所として活用（自主学习や放課後の居場所づくり） ・小さな子ども達が雨天でも遊べる場所を整備し、子育て世代が安心して過ごせる場として利用
		公園機能	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具広場（木造大型遊具、地形を活かした遊び場） ・芝生広場（ドッグランなど） ・親水公園（小さな子どもが安全に遊べる水場） 	<ul style="list-style-type: none"> ・球磨村産木材を利用した遊具の整備（地域外からも集まる大型遊具公園の整備） ・盛土を利用した滑り台設置など、地形を利用した遊び場も検討 ・ドッグランを整備し、帰りにジビエペットフードの販売（鹿骨ガムなど） ・小さな子どもが安全に水遊びできる場所を整備（小川地区の山水、冷温泉の利用を想定）
		復興・防災	<ul style="list-style-type: none"> ・復興祈念 ・防災機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年7月豪雨の記憶を伝える印として小規模なモニュメント設置（災害の伝承や支援への感謝を伝える） ・災害時は救援部隊活動の拠点として、公園や駐車場スペースを利用 ・災害時の支援活動に必要なスペースとして、2500㎡以上の駐車場等スペースが必要 ・施設においては、建物耐震化、無停電化、通信・水の確保
その他	環境エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素の村づくりとして、グリーンエネルギーの利用を推進 	
その他	民間機能		<ul style="list-style-type: none"> ・事業者からの提案でコインランドリーや無人受取ロッカー等、地域住民の生活利便性の向上が図られる機能 	

■球磨村賑わい拠点施設 基本構想骨子

(8) ゾーニング

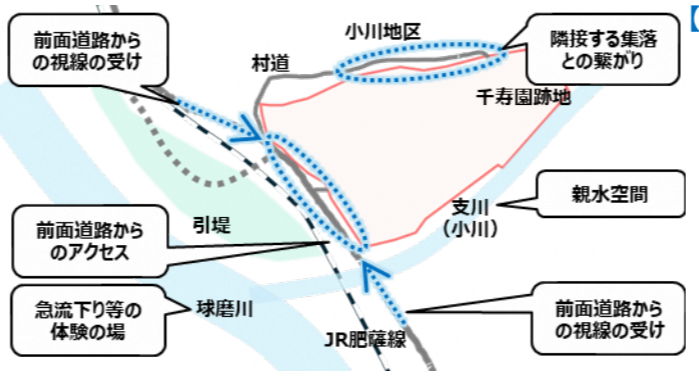
ゾーニング：基本構想段階で大まかな機能の配置を設定するもの（より具体的な平面計画は基本計画で作成）

【基本とした導入施設】

分類	導入施設
産業・観光	物産館、情報発信コーナー、飲食店
暮らし・生活	地域交流館
復興・防災	公園：全天候型遊具、水遊び 復興の展示、救援部隊活動拠点

【周辺との関連】

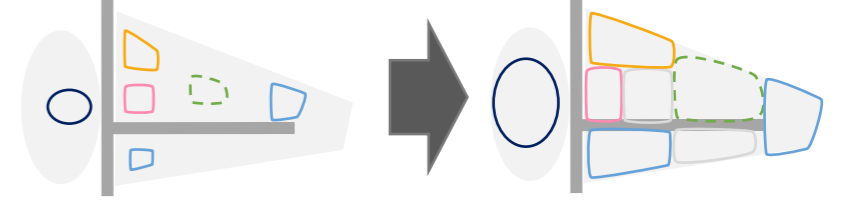
対象敷地の周辺の資源やインフラなどとの関連を考慮したうえで、敷地内の機能配置を検討



【隙間・段階的整備の考え方を取り入れる】

ゾーニングの計画では敷地全体の配置の考え方を検討するが、実際の土地利用は最初から敷地全体を埋めるのではなく、以下の考えで時間軸を持った考え方を取り入れる

- ・隙間・繋ぎ空間を活かす
- ・ヒトの流れやニーズ等に応じて拡大、改変等柔軟に対応



	案①	案②	案③
プラン			
概要	駐車場（この敷地での活動の起点）から各ゾーンにアプローチしやすいように配置する考え方	主要機能を西側へ集約（機能間のつながり、利用の自由度が高い）して配置する考え方	前面道路を面するエリアを“入口空間”と捉え、環境空間、交通結節として重視した考え方
長所	【平常時】 <ul style="list-style-type: none"> ・小川地区側（北側）に暮らし・生活ゾーンを配置し、住民が地域交流館へ最短ルートでアプローチできる ・西側に産業・観光ゾーンを配置し、建築の意匠的なファサードで来訪者の視線を受ける ・進入軸上に遊具や記念碑等に配置可能 ・公園内のせせらぎ、さらに、公園から小川に親水空間がつながる 	【平常時】 <ul style="list-style-type: none"> ・小川地区側（北側）に暮らし・生活ゾーンを配置し、住民が地域交流館へ最短ルートでアプローチできる ・西側に産業・観光ゾーンを配置し、建築の意匠的なファサードで来訪者の視線を受ける ・公園から小川にアプローチ可能 【災害時】 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場を前面道路側に配置しており、災害時に利活用しやすい 	【平常時】 <ul style="list-style-type: none"> ・小川地区側（北側）に暮らし・生活ゾーンを配置し、住民が地域交流館へ最短ルートでアプローチできる ・道路からの視界が良好で車両が入りやすく、利用者のアクセス性がよい。 【災害時】 <ul style="list-style-type: none"> ・前面道路側に駐車場と公園があるため、災害時利用に適している
短所	【平常時】 <ul style="list-style-type: none"> ・産業・観光ゾーンと公園に距離があり、一体的な活用・賑わい創出が難しい 【災害時】 <ul style="list-style-type: none"> ・前面道路から少し奥まった位置に駐車場等活动拠点があるため、災害時の利便性に劣る 	【平常時】 <ul style="list-style-type: none"> ・産業・観光ゾーンと公園に距離があり、一体的な活用・賑わい創出が難しい ・調整池が東側にあるため場内に親水空間（せせらぎ）を整備することが困難 	【平常時】 <ul style="list-style-type: none"> ・暮らし・生活ゾーンが敷地の奥にあり、小川地区以外の村民の行き来が不便 ・産業・観光ゾーン他案よりも奥にあり、国道から建築の意匠が見えづらい ・調整池が東側にあるため場内に親水空間（せせらぎ）を整備することが困難

※本資料に示す県道325号線の線形は、検討段階の内容であり、確定したものではありません。今後の関係機関との協議や調整により、変更となる可能性があります。

※調整池は開発許可審査の過程において、設置の要否が判断されるものであり、審査結果によっては、設置を要しない場合があります。

■球磨村賑わい拠点施設 基本構想骨子

(9) 整備手法及び想定される運営体制 (案)

- 施設の整備手法及び運営手法・体制については、公設公営（行政直営）、公設民営（指定管理者制度、DB+O、DBO方式）、民設民営（PFI方式、定期借地権+リース方式）等が考えられる。
- 指定管理者としては、民間事業者だけでなく、村と民間事業者が合同出資する第3セクターも考えられる。
- 賑わい拠点施設の設計・建設・維持管理・運営にあたり、どの整備手法・運営手法・体制が適切か、今後、民間事業者へのサウンディングを実施し、その結果等を踏まえて最適な事業手法を選定する。

■想定される事業手法

運営手法	概要・特徴	官民の役割			
		資金調達	設計	建設	維持管理・運営
公設公営 ① 従来方式 (行政直営)	村の資金調達により、設計、建設をそれぞれ村が民間事業者に発注し、維持管理・運営は村が直営で行う方式。	村	村発注	村発注	村
公設民営 ② 従来方式+指定管理者制度 ③ DB+O (Design Build) ④ DBO方式 (Design Build and Operate)	村の資金調達により、設計、建設をそれぞれ村が民間事業者が発注し、維持管理・運営は民間事業者に委託する方式。	村	村発注	村発注	第3セクター/民間事業者
	村の資金調達により、民間事業者が設計・建設を一括で行い、別途選定した民間事業者が維持管理・運営を行う方式。	村	村発注	民間事業者	第3セクター/民間事業者
	村の資金調達により、民間事業者が設計・建設・維持管理・運営を包括的に行う方式。 ・施設の設計・建設、維持管理・運営を一体事業として発注するが、契約形態は3つに分かれる。 ・設計・建設は設計建設事業者(JV)、維持管理・運営はSPC(特別目的会社)が行う。 ・PFI法に準じて事業者募集・選定等が行われる場合が多い。	村	村発注	民間事業者 + SPC	
民設民営 ⑤ PFI方式 (Private Finance Initiative) ⑥ 定期借地権+リース方式	民間事業者の資金調達により、民間事業者が設計・建設・維持管理・運営を包括的に行う方式。 ・PFI法に基づき実施する。 ・SPC(特別目的会社)を指定管理者として指定する。 ・維持管理・運営期間中の所有権の違い等により、BTO、BOT、BOOに分類される。	民間			SPC
	村が土地を所有し、一定期間土地を民間事業者に賃借し、民間事業者の資金調達により、民間事業者が施設を設計・建設し、民間事業者または村が床を借りて施設の維持管理・運営を行う方式。 ・民間が整備した施設に村が床を借りて入居する。 ・リース開始前には村の予算立ては不要であり、賃貸借契約により年度予算の平準化を図ることができる。	民間	民間		民間または公共

■事業手法ごとのスケジュール感のイメージ ※あくまでイメージであり、設計・建設に掛かる期間は事業量・施工量により変動する

事業手法	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目~
① 従来方式 (行政直営)	基本構想・基本計画・導入可能性調査	募集・選定	基本設計	実施設計	工事発注	建設	維持管理・運営
② 従来方式+指定管理者制度 ③ DB+O	基本構想・基本計画・導入可能性調査	募集・選定	基本設計	実施設計	建設	運営事業者募集・選定	維持管理・運営
④ DBO方式・⑤ PFI方式・⑥ 定期借地権+リース方式	基本構想・基本計画・導入可能性調査	事業者募集・選定	基本設計	実施設計	建設		維持管理・運営

■想定される運営体制のイメージ

